

平成 30 年度 大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会

議事まとめ

日 時：平成 31 年 3 月 25 日（月） 15 時～17 時

会 場：役場 3 階 大会議室

参加者：別紙のとおり

～ 次 第 ～

1. 副町長挨拶

2. 委員挨拶

3. 会長・副会長選出

【会 長】 田村 馨

【副会長】 光安 幸蔵

4. 議題

「大刀洗“よかマチ”創生プロジェクト」

町の人口動態について概要を説明させていただきました。

また、計画の進捗状況と今後の取り組みについて

5つの基本目標ごとに説明し、各委員からご意見をいただきました。

以下、主なご意見を抜粋して記録しております。

■ 基本目標① 「ひと」の流れをつくる

委員

地域案内人利用者数が3年間「0」続いている理由は？校区センターへの導線は？そもそも校区センターの存在は知られている？

事務局

各校区センターが窓口となって対応をお願いしていますが、移住された方が各校区センターに行って相談をする場面が今はありません。事業開始時には校区に住む方の近くに相談できる場があった方がいいと思います。開始しましたが、校区センターの認知度がまだまだ低いです。今後は、転入時に周知を強化していきます。

委員

役場の相談窓口に来る人は、既に移住を決めている人？

事務局

相談に来る人は、2パターン。1つは、近年の水害等の影響もあり、町の状況を知りたいというパターンです。もう1つは、既に住んでいる人が地域のスーパー等の場所を知りたいというパターンです。相談は前者が多いです。

委員

人口15,000を維持するのはすごいこと。しかし、もっと人口を増やすためには、ほかの町から大刀洗町に引越して家を建てるとき、ふるさと納税の寄附収入を活用し、奨励金などを出してみてもどうか？

定住促進住宅は仮住まい。定住してもらうための住宅奨励金など。

事務局

大刀洗町は、奨励金を出していません。しかし、家を建てることに対する直接的な補助ではありませんが、来年度以降に東京圏から引越してきた人が大刀洗町や近隣市町村で仕事を行うことで補助を受けられる国の制度も活用しながら行う予定です。国の動向を受け、久留米市と大刀洗町が実施の方向で手を挙げています。

委員

アンテナショップの閉店理由は？閉店後は？今後も周辺市町村と協力して出店していく？

事務局

閉館理由は、当初見込んでいた入りこみ数を下回り、採算が取れなかったためです。建物の構造が1～2階の導線が悪く利用しにくい状況でした。また、食の魅力アピールを目指していましたが、想定していた飲食物が提供出来ないなどの制限が多く、活用が難しい部分もありました。今後も、久留米市を中心として4市2町で連携して行うことは大切なので、別の方法を検討していく予定です。

委員

定住促進住宅は、退去後、大刀洗町に家を建てているとのことだが、その件数は？また、この住宅に住む人に定住に向けたアピールはしているのか？

事務局

スカイラク菊池は平成27年度から、退去4件に対し2件は町内に家を建てました。スカイラク上高橋は平成29年度からの入居で退去0件。今後4年5年が過ぎ、入居者の子どもが小学校に上がる頃になって、大刀洗町は分譲も活発なので、不動産関係と連携しながら進めていく必要があると考えています。

委員

空き家の活用について。新規で建てた家増え、空き家も増えては意味がない。今後の対策は？

事務局

空き家が増えているにもかかわらず、新規戸建も建っていくという現状は、役場としても認識しています。これは中古物件が好まれない背景もあると考えています。今年度実施した空き家の全庁調査をもとに所有者にダイレクトに訴えかけるように進めていくとともに、今後は中古物件のリノベーションなどの施策も検討していきます。また、ほんとに老朽化した物件は、危険がおよぶ場合など最終的には、行政代執行などを視野に入れていきます。

委員

地方創生も4年が終わり、事業のKPIの見直しも必要となってきた。移

住相談件数が少ない一方で、年間転入者が 700 人前後という状況が何年も続いている。なぜ転入者は増えているのに相談件数は増えないのか。そこの分析が出来ていないと KPI の継続は難しいのでは？ 転入者の属性をもっと詳しく調査していく必要があると思う。

■ 基本目標② 結婚・子育ての応援

委員

婚活セミナーは今後も続ける？セミナー時にドリームセンターでカフェをしたが、隔離されているようで面白さが伝わってこない。視点を絞るのは大事だけど、カップル成立後、町の人も絡める方が楽しいのでは？

事務局

今後もセミナーは続けます。参加者の中には、いろんな人に見られたくないという人もいますので配慮が必要です。

次年度は交流しながら楽しくわいわいできるイベントにできないかと考えていて、具体的には大刀洗町の野菜をふんだんに使って地元の農家さんなどと交流しながら行える BBQ イベント等を検討しています。

委員

産後ケアや子育て相談は、年々件数が増えているが、さらにバックアップする方向はあるか？

事務局

昨年の審議会で産後ケアは認知されていないのではとご指摘を受けました。それを受けて、広報活動等で認知度を高めることと使いやすさを高めることを今年度行ってきました。マンパワーの問題もあるが、これからお母さんになる方の数は限られているので、もう少し注力していく方向です。

また子育て相談については、地方創生事業が始まる前から大刀洗町が取り組んでいました。以前は、庁舎内での横断的な活動ができていなかった関係でうまく取り組めていなかった部分もあったが、今は、子ども課に職員の配置をして強化しています。今後できるだけ対応していく予定です。

担当課からの追加回答

産後ケアは現在、生後4か月までを利用できる期間と定めていますが、4か月以降に母乳のトラブルが発生することもあり、利用できる期間を延長する方向で検討したいと考えています。

委員

子育て相談事業は、実人数？延べ人数？

事務局

実人数です。

委員

昨年度を踏まえ、おっぱいケア等のメニューが増えたのは良かった。しかし、産後ケアに無料だから来ているのか、それとも本当に問題を抱えているから来ているのかの把握は出来ているのか。この事業は、単純に利用者が増加すればよいというものでもないと思う。昨年度は、把握できていないとの回答だったがその後は？

事務局

産後ケアの利用者で、問題を抱えている人の把握はできています。継続的な支援が必要な場合は、産後ケア施設のスタッフから連絡を受け、家庭訪問等その後の支援につなげています。

委員

議会で、役場内に臨床心理士はいるが、産後ケアの対象者とつながっていないと聞いた。事業目標を達成してよかったではなく、継続的に支援が必要な人の引き継ぎは必要なのでは？

事務局

役場内に常勤の臨床心理士はいません。しかし、乳幼児健診の際に依頼し、発達や子育ての心配ごとなどの相談に対応してもらっています。

産後ケアの対象者で継続的支援が必要な方については、その後もフォローするようにしているため、乳幼児健診の際の臨床心理士相談につなげるようにしています。

委員

新生児訪問は、生後4ヶ月以内に行っていると思うが、幅広い。実際にどのぐらいの期間で行っていますか？産後すぐの期間がお母さんの負担が重く、問題も見えやすい。自分から相談してくる人は案外問題がないことが多い。周囲から見てがんばりすぎの方などはこちらからアプローチすることが必要だと思うが。

委員

行政が実態をどのように把握しているかを分析することが総じて必要。数字

ありきだと見えない部分が多く、審議できない。

事務局

自分から相談できない人を早くキャッチし、早期に支援を開始するため、母子手帳発行の際に、1人当たり30分程かけて専門職で対応するなど、関係づくりに努めています。

訪問する時期は、予防接種を受け始める生後2か月までには実施しています。産後すぐの訪問を希望される場合は、すぐに対応しています。最近は、産婦人科との連携がとれるようになり、退院の際に産婦人科から支援が必要な方について情報提供があるため、早期の訪問につながるケースもあります。

■ 基本目標③ 「しごと」の応援

委員

香港等の国外への流通で町の PR にはなると思うが、生産者の利益率は？

事務局

海外に出すとどんどん売れると思われがちだが、実際に生産者が汗をかいてもらわないと成功はしません。町は流通の PR をする役目。町は利益率の把握まではしていません。海外の売り先によって付加価値がついて国内で売れることはあるかもしれないが、その部分も把握していません。

委員

年度ごとに商品の入替えは？

事務局

種類が増えています。例えば、日本酒の種類が増えたり、野菜の種類が増えたりしています。

委員

商品が増えると、1商品ごとの売り上げが下がる。単純に売り上げを商品数で割ると、平成 28、29 年度と比べて平成 30 年度は 20 万円ほど下がっている。

■ 基本目標④ 「まち」をつくる

委員

バスの延伸はいつ？

事務局

JR 久留米から西鉄久留米を経由し、両筑苑（久留米市北野町）へつながる路線があります。北野線と呼ばれるものです。現在 2019 年 10 月のダイヤ改正に合わせて運行ができるように、西鉄久留米駅を出発点として上高橋地区まで延伸することを協議しています。

委員

大刀洗パーク・アンド・ライドの臨時利用は始まっている？件数は？

事務局

既に始まっています。利用件数はカウントしていないが、休日には利用者が駐車している様子が見受けられます。

■ 基本目標⑤ 魅力の発信

委員

応援大使の数は増えているが、大使になった方が実際にどのように活動しているか見えない。把握はしているか？

事務局

これまでの数年は、応援大使に登録をするということに特化してきました。実際に数字は追っていないが、SNS 発信やイベント等を行っていることは耳にしています。「応援大使」を使うときは申請してくださいという制度にはしていません。しかし今、応援大使の方が情報交換をするプラットフォームがないのが今後の検討課題です。ツールの精査も必要性を感じています。

委員

フェイスブックの内容をインスタグラムにも投稿はしない？同じ内容で支持層が違うので、使うべきだと思うのですが。

事務局

フェイスブックのアカウントとインスタグラムのアカウントの権限者が重複していない関係で、両方に出している情報とそうでない情報があります。若年層がフェイスブックを見ないと指摘もあったので、インスタグラムの活用についても積極的な活用を検討したいと思っています。

委員

インスタグラムはハッシュタグで拡散していくので、わざわざ町の HP を検索して自分からピンポイントに情報を見に行くなどしなくても興味がある人に関連ワードから見てもらえる。拡散力が大きい。

委員

風景発見件数は、KPI が少ないのではないかな？
100 件くらいにするとかな？

事務局

元々、広報紙の表紙に採用することを想定しており、写真の状態など細かく指定していた。

委員

広報紙の表紙になるかどうかは後々考えることで、「大刀洗町のこの風景いいよね」というのを気軽にアップすることを目的としていたはず。

委員

ドリームセンターで行っている写真展とコラボレーションは？件数も増えるはず。

委員

ハッシュタグとかわからないから、SNSの勉強会などをするといいのでは。自分たちの住む町を見る動機付けのひとつとして活用できると思う。景色を見ることを教えられる。

事務局

いただいたご提案をもとに検討させていただきます。

■ その他

事務局

基本目標②の中の「であい創生プロジェクト」は、イベント参加者の満足度は高いが、参加者が集まらないことが懸案事項です。周知の方法はほかにか検討したいです。例えば、福銀さんや農協さん窓口に置く等は可能でしょうか。

⇒福銀さん、農協さん共に「可能」との回答をもらいました。

委員

チラシを見てすぐに『婚活』と分かるものならば、手に取る人は限られてくると考えてよいと思う。

委員

この審議会は、傍聴可能か？その場で意見できなくても、聞きたいという人がいる。できあがったものに文句は言いやすいが、その大変さを知ってもらうことも大切なのでは？

事務局

ほかの審議会などは個人情報等の兼ね合いがあって難しいかもしれないが、この審議会は可能です。